

静岡県漁業協同組合連合会
No.1115 静岡市追手町 9-18
16.10.22 ☎ 054-254-6011
編集・発行＝指導部漁政課

1．平成16年度天草共販入札会終了

本会の平成16年度天草共販事業は、去る10月13日開催の第7回入札会(うち1回中止)をもって終了しました。なお、今回の入札結果及び本年度の取扱累計は次のとおりです。

▽第7回：数量＝5,622kg(234本)、取扱金額＝6,980千円、平均単価＝12,415円(10kg当たり)、最高入札価格＝稲取まくさ(粗)・16,640千円(10kg当たり)

▽取扱累計：数量＝49,145kg・1,978本(対前年比：1,901kg・77本増)、取扱金額＝68,610千円(同1,129円増)、平均単価＝13,960円(同324円安)

本年の取り扱い数量及び平均単価は、不漁だった昨年並みとなりました。

2．県漁協女性部幹部研修会開催される - JF静岡女性連 -

県漁業協同組合女性部連合会(山本節子会長)では、去る10月14～15日焼津市内で37名の女性部員等が参加して、平成16年度漁協女性部幹部研修会を開催しました。

この研修会は、漁協女性部の幹部部員を対象に、漁村女性のリーダーとしての幅広い知識と教養を高め、漁協女性部の充実を図ることを目的に毎年開催しています。

研修会では、山本会長の挨拶に続いて、農業マーケティング研究所山本和子所長より「漁村女性は起業して地中海へ行こうー魚食普及活動を通じたマーケティングをー」と題して、講演が行われました。引き続き共水連県事務所小林寛和業務課長より「JF共済」について説明が行われました。

二日目は、焼津新港の焼津魚市場、超低温冷蔵庫、深層水ミュージアム、深層水取水・給水施設、焼津さかなセンターなどの視察・見学を行いました。

3．原油高騰 漁業へも打撃

原油価格が依然として騰勢を強め、指標となるWTI(ウェスト・テキサス・インターミディエート)先物価格は10月18日の取引で1バレル55ドル、前半の最高値圏で推移し、市場では年内にも60ドル突破もあり得るとの見方が強まり、当面は強含みでの推移が予測されています。

水産業界でも船舶燃料の重油や、魚網・魚網原料のナイロンやポリエステル、魚箱や食品トレーに使われるポリエチレンなどの製品には直接的な影響が予想されます。

さらに、物流通まで含めると、輸送に不可欠なガソリン・軽油、スーパー・コンビニエンスストアで用いられるポリエチレン製のレジ袋、包装資材となるポリプロピレンフィルムなど間接的な影響も懸念されています。

原油高騰の理由は、イラクの政情不安が最大の要因で、これにロシア企業の経営不振と大型ハリケーンが直撃したメキシコでの供給不安、ナイジェリアでのゼネストが重なり、価格上昇を後押ししています。また、今後は冬場の需要期を迎えることで、高止まりするとの見通しが強くなりそうです。

4．平成16年度養鰻研修会開催のお知らせ - 県養鰻協会 -

県養鰻協会(杉浦君和会長)では、養鰻業に関する技術の習得と知識の向上を図り、県

内養鰻業者・養鰻漁業組合の経営と本県養鰻業の振興に資することを目的に、来る12月1日(水)10:30から福田町中央公民館において、平成16年度養鰻研修会を次のとおり開催しますのでお知らせします。

▽研修：①「本県のうなぎ種苗採捕実態について」県水産資源室技師 鈴木邦夫氏

②「うなぎ飼料の安全性について」(社)日本養魚飼料協会事務局 鈴木秀和氏

▽講演：「うなぎ種苗生産技術の開発について」(独)水産総合研究センター養殖研究所生産技術部繁殖研究グループ長 田中秀樹氏

▽問合せ・県養鰻協会(県漁連団体課) TEL:054-254-6548

5．水産業・漁村の多面的機能を国民にPR

水産庁では、水産業・漁村の多面的機能の位置付けが重要になっていることから、このほど水産庁自らが多面的機能の理解を進めるとともに、水産業の支援者を増やすため各関係団体、地方公共団体を通じて広報の強化に乗り出し、早期に深く多面的機能への理解を促す必要があるとしてパンフレットを作製し、広く全国に配布して一般市民に多面的機能への深い理解を促しました。

水産基本法でも掲げられているように、水産業は安全・安心で新鮮な水産物を国民に供給する本来的な機能だけではなく、国境監視などの生命・財産の保全、環境保全などの物質循環の補完と生態系の保全、海洋性レクリエーションの機会の提供や、体験学習の場としての交流の場の形成、雇用創出や文化の創造・継承などの地域社会の形成や維持などの多面的な機能もっています。パンフレットでは、比較的一般市民でも分かりやすい「国境監視」「海難救助」「生態系保全」「文化継承」「交流」などに加え、漁業が行なわれることで海洋有機物が物質循環に組み込まれ、再資源化サイクルが形成され、環境が保全されているという目に見えにくい機能なども図説し、幅広い面で水産業・漁村が果たしている役割をアピールしています。

6．新刊図書紹介 「魚へん漢字講座」江戸家魚八著

初めて、連れて行ってもらった江戸前寿司の店で、湯のみ茶碗いっぱい書かれた“魚文字”に魅了され、魚へんの漢字を調査するようになった、自他共に認める魚フリークのライター兼編集者である著者の江戸家魚八氏のそんな思いをまとめた「魚へん漢字講座」が新潮社から発行されました。

本書は“魚へん”の漢字講座だけにとどまらず、名前の由来から始まり、旬、獲れる場所、地区ごとの呼び名、そして調理法をも網羅し、普段知ることのできない興味深い内容がたくさん掲載され、さかな通になれる一冊です。

▽定価460円(税込) ▽問合せ先：(株)新潮社 〒162-8711東京都新宿区矢来町71読者係

TEL:03-3266-5111

7．諸会議・日程(10月26日(火)～11月8日(月)) - 既報分省略 -

11月 4日(木) 県漁船保険組合＝監事会 (県水産会館)

11月 6日(土) 県おさかな普及協議会＝第3回おさかな料理コンクール (鈴木学園)

11月8(月)～9日(火) 県漁連＝自民党水産関係国会議員と漁業関係者との

対話集会及び視察(伊東・沼津・焼津)